

市街地整備促進特別委員会資料

案件 1 富田地区のまちづくりについて

令和 7 年 11 月 4 日

【都 市 創 造 部】

【総 合 戦 略 部】

案件 1 富田地区のまちづくりについて

目 次

1 公共施設再構築の更なる取組について

1 公共施設再構築の更なる取組について

1-1 公共施設再構築の更なる取組について

富田地区においては、豊富な歴史・文化などを最大限に活かし、本市西部の都市拠点としてふさわしい、にぎわいあふれるまちづくりを進めることが重要であることから、地域全体を俯瞰した公共施設の再編・最適化、市有地の利活用による住環境の向上やエリア価値の向上などを検討することにより、富田地区の更なる活性化に向けた取組を推進するため、本年4月に「富田地区まちづくり庁内検討会」を設置し、取組方針等の検討を行っている。

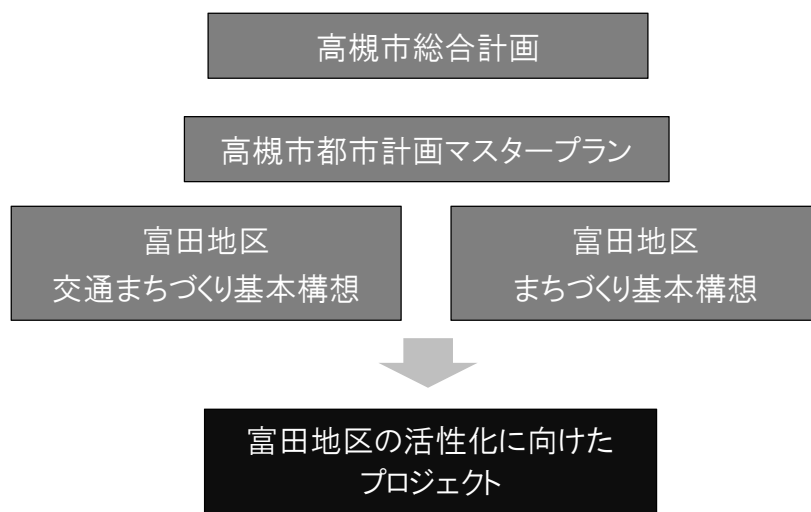
1-2 富田地区の活性化に向けた取組について

(1) 取組の背景と目的

- 富田地区は、都市機能が集積する西部地域の都市拠点であり、特にＪＲ摂津富田駅及び阪急富田駅周辺については、にぎわいや活力を支える多様な都市機能が高度に集積するエリアである。
- 富田地区のかねてからの課題は、阪急の踏切による交通渋滞やＪＲ及び阪急の踏切による歩行者等の安全性確保などの交通問題であり、抜本的な解決策となりうる鉄道高架化等の検討を行ってきたが、事業の実現には長期間を要する。
- 一方で、本市ではこれまでに都市計画道路の整備をはじめ、老朽化した市営富寿栄住宅の建て替えを進めるとともに、老朽化した公共施設について複合化の検討を行うなど、公共施設の再構築を軸としたまちづくりに取り組んでいるところである。
- このような中で、今般、富田地区においては、豊富な歴史・文化を活かした本市西部の都市拠点としてふさわしい、にぎわいあふれるまちづくりを進めるため、改めて地区全体を俯瞰した公共施設の再編・最適化や市有地の利活用を含め、富田地区の活性化などに資するプロジェクト（事業）について具体的な検討を行う。

(2) プロジェクトの位置づけ

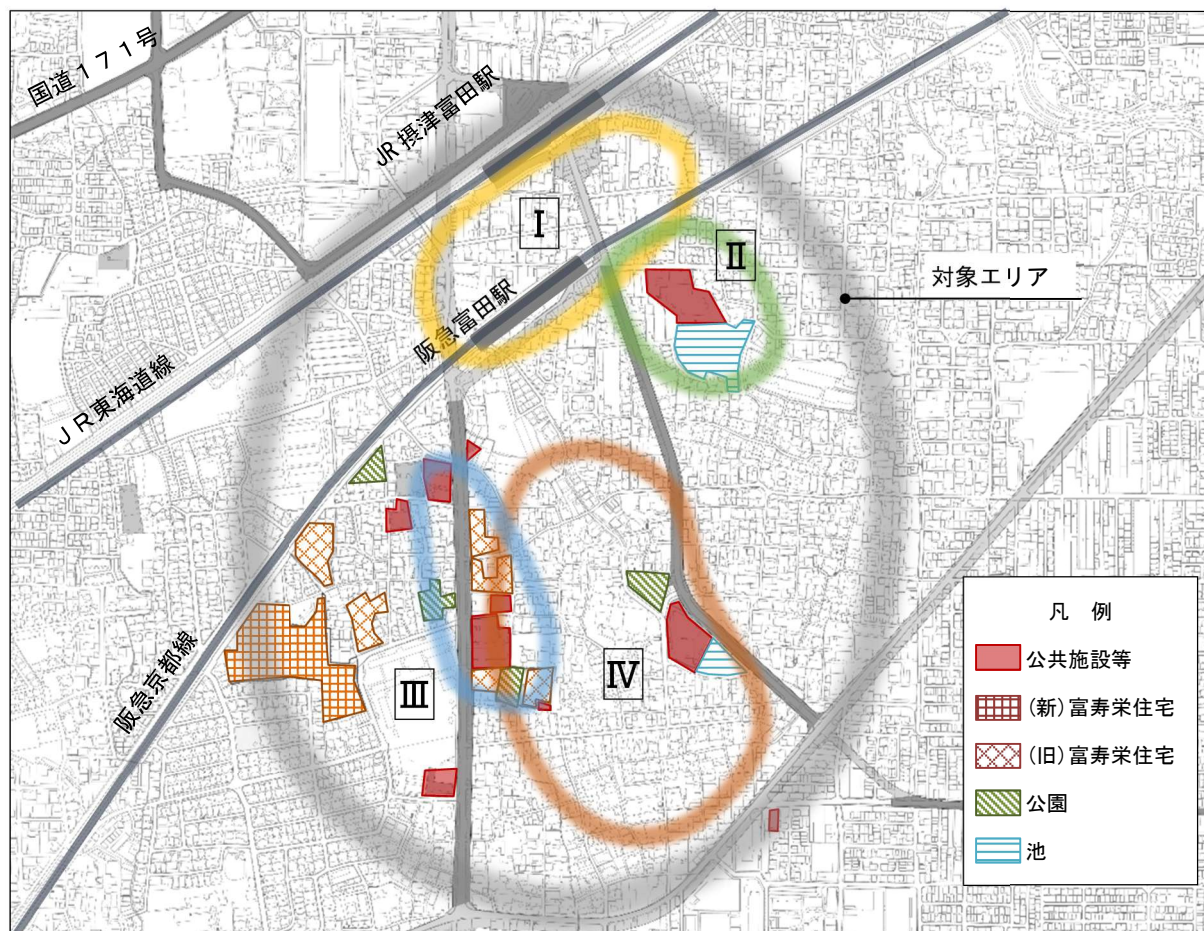
当該プロジェクトは、関連する行政計画を踏まえた短期的なプロジェクトとする。



(3) 取組対象エリア

富田地区におけるまちづくりに関する計画・構想（高槻市都市計画マスタープラン、富田地区交通まちづくり基本構想、富田地区まちづくり基本構想）で定めた基本方針を踏まえ、対象エリアを下図のとおりとする。

① ゾーニング図



② 取組の方向性

I 駅前・駅間周辺ゾーン

- JRと阪急の駅が近接し利便性が高く、特に朝夕の時間帯は歩行者と車両が混在するなど、安全・安心な移動・滞在に大きな課題がある状況にある。
- これらの課題解決に向けては、中長期的に取り組む鉄道高架化事業と周辺道路の整備に合わせて関係機関と連携したまちづくりに取り組むものとする。

II 小寺池図書館周辺ゾーン

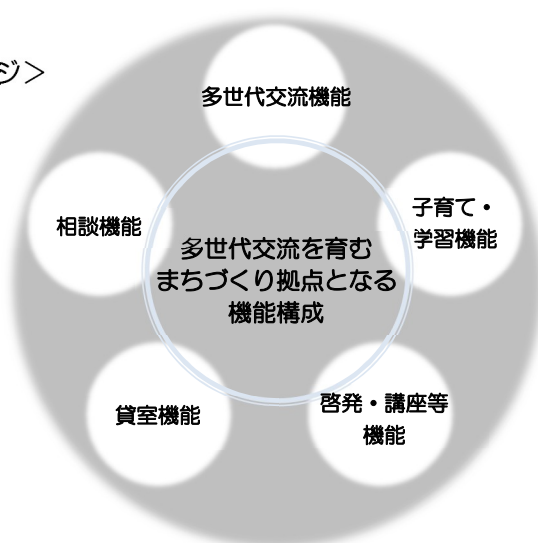
- 落ち着いた雰囲気で見られる図書館を中心に、隣接する親水池や散策路等まちなかの貴重な緑の空間として、地域住民に親しまれている。
- 小寺池図書館において、自習室の設置や、親子で楽しめるお話コーナーの増設等、利用者のニーズに合わせた施設の拡充や快適に利用できる環境整備など利便性向上を図る。

Ⅲ 新公共施設周辺ゾーン

- 富田ふれあい文化センター、富田青少年交流センター、富田老人福祉センターなど地域の多様な交流の場や地域住民の生活を支える施設が集積している地区である。
- 一方で、これらの公共施設は築年数が経過し、老朽化が顕著で施設の更新が必要となったことから、「富田地区まちづくり基本構想」に基づき、地域と意見交換を行いながら施設の複合化について検討し整理してきたところである。今回、改めて公共施設の再構築に向けた検討を行った結果、現在富田公民館で行われている社会教育事業や貸室機能も含めて必要機能の集約化・多機能化を図ることにより、地域住民の多世代交流拠点として様々な交流が生まれる場を創出する。
- 新公共施設は、当該施設がある現位置に建て替えることで、公園や市営住宅跡地などの市有地を活用した広場空間を確保するとともに、隣接する神社仏閣など広がりのある緑と連携した憩いや防災などの空間を整備し、新たな公共施設と調和した誰もが多目的に利用できる場を創出する。

<新たな公共施設の機能構成イメージ>

(富田地区まちづくり基本構想より)



Ⅳ 寺内町・歴史文化ゾーン

- 三輪神社や教行寺、普門寺、本照寺など、古くから数多くの神社仏閣が残る地区であり、将来にわたり、地域の歴史や文化を保存・継承していくことが重要である。
- 神社仏閣や酒蔵など歴史的なまちなみ景観が残るエリアにおいて、地域等と連携しながら、富田の歴史に触れ、楽しむことができるまちなみを整備する。
- 富田支所などの公共施設については、築年数が経過し老朽化が顕著となっており、建て替えを前提に検討を行う。その際、富田支所については、業務継続性を考慮するとともに、地域活動に必要な機能も合わせて、周辺地への建て替え移転を検討する。
- 跡地の利活用については、富田地区にはない公共施設として、伝統芸能にも親しめる文化ホールや富田の歴史資料館など、本市の新たな歴史文化の拠点となる施設の整備を検討し、品格と魅力・活力のあるまちづくりに取り組む。

(4) 余剰地の利活用

富寿栄住宅跡地や公共施設の再編・最適化により生じる余剰地については、富田地区のにぎわいや活性化に寄与する取組や、新たな公共施設との相乗効果が期待できる活用を検討するとともに、民間事業者による事業用地としての貸出や売却も含めた検討を行う。

1－3 今後の予定

今後も引き続き、庁内検討会において具体的な検討を行うとともに、富田地区の地元関係団体等との意見交換を行いながら、本市西部の都市拠点にふさわしいまちづくりの推進に向けた検討を行う。